
異端児の夢

リセッシュ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異端児の夢

【Nコード】

N17330

【作者名】

リセツシュ

【あらすじ】

バケモノと呼ばれ誰とも関わらなかった少年がある日異世界にくぐった。

プロローグ

「バケモノ」少年はそう言われてきた。

少年は生まれた時親に捨てられた。

そして少年は老人に拾われ今まで生きてきた。

少年が12歳の時この世でたった一人の家族がいなくなった。

少年は誰とも関わらなくなり心を閉ざした。

「誰も信じない信じれるのは自分だけだ」

そして3年の月日がたったある日少年は異世界に旅立つことになった。

少年の名は日向 翼^{ひなた ひと}

翼には夢があった。それは近くにあるながら翼にはとても遠いものだった。

プロローグ（後書き）

初めましてリセツシュと言います。

初小説なので誤字脱字オンパレードですが頑張りますのでよろしく
お願いします。

第一話始まり

「はぁー」翼はためいきをついた

「なんで俺こんなところいるんだろ」

周りは何もなくただ真っ白い壁があるだけだった。

「たしか俺家で寝てたよな」

翼が考えていると後ろから声がした。振り返ると小学生ぐらいの少女が立っていた。

「誰？てかここどこ？」翼が訪ねた

「ここ？ここは私の部屋だけど」

少女は淡々と答えた。

「てか俺家で寝てたよななんでお前の部屋に居るの？てか誰だよお前」

「私？私は神様だよ最も偉いんだよすごいでしょ」

少女は自慢気に答えた

「はいはいじゃあ神様が俺になんのようですか？さっさと帰りたいんだけど」

翼が呆れながら答えると自称神が不思議そうな顔で見ていた

「なんだよ何も無いんだつたら帰るから」

「帰れないよだってあなた死んだんだから家に落ちてきた隕石でね」

「そっか俺死んだんだ。じゃあじいちゃんのいるところに連れて行ってくれよ」

「驚かないの？死んだんだよ？」

神は少し驚きながら答えた。

「別に生きてることなんてどうでもよかったからまあ自分で死ねないから生きてただけだしさ。だからはやくじいちゃんのとこに連れて行けよ」

翼が言う少し困りながら神が答えた。

「あの隕石で人が死ぬなんてなかったのに死んでしまったのでいろいろ問題なんだよね。まあ君のその力のせいなんだけどね」

神は少し申し訳なさそうにいった

「またこの力かこれのせいで」

翼が嫌そうに言った

「君の力は異常だからね君しだいで救世主にもなれるしこの世を壊すこともできるしね。まあ君にはまだ生きてもらわないと困るんだかと言って元の世界には戻せないんだけどね」

神は笑いながら言った

「どうゆうことだよ？」

翼が訪ねると

「君には違う世界に行ってもらいます。まあ君が居なければいけなかったところなんだけどね」

「どうゆ」「それでは行ってらっしゃーい」

翼は空いた穴に落ちていった。

第一話始まり（後書き）

ものすごいぐちゃぐちゃですが頑張っています
なにかあつたらおもいきり教えていただけるとありがたいです

第二話異世界

「膨大な魔力を感知しました。場所は死の森」

「くそんな日に限って零番隊あとSクラスの魔術師を集める。ほかの隊は引き続き王位継承式の警備を頼む」

「了解しました。」

隊員が答えた

「（零番隊及びSクラス以上の魔術師は直ちに司令室に集合してください。そのほかの隊は引き続き王位継承式の警備にあたってください）」

特定の人だけに話ができる念話だ。

十分後

「隊長どうしたんですか？」

「おう集まったか。死の森に膨大な魔力が感知された。これから探索に行くもし抵抗するようであれば殺してもかまわない」
「りょーかい」

「それでは死の森に轉移します。轉移」
女性が言うと彼らは轉移した。

一方翼は

「くそあのアホいつかシバいてやる。ここはどこだ？」

翼が周りを見渡すと暗い森のようだった。

「いったいなんだよここ」

翼が小さくつぶやいた

「そこのお前ここで何している」

翼は声のした方に振り向くと鎧を着た男達が立っていた。

「いやなにつて気づいたらここにいたんだけど」

「大人しく私達に着いてきてもらおうか。大人しくしていれば危害を加えるつもりわない」

「わかったよ。別に抵抗する気もない。どこに行くんだ？」

「王宮だ。その前にこれをつけてもらう」

そついうと指輪を渡してきた。

「なにこれ？」

翼が訪ねた

「これは魔法を使えないようにする物だ。用心のためだからな」

「わかった」

翼は指に付けた。

「よし。とりあえずこれでいいな。そついやまだ名前言つてなかったな。俺はヴァン・スローン。零番隊の隊長だ。ヴァンと呼んでくれ」

「日向 翼だ」

翼は答えた

「それじゃあ王宮に行くか。 転移頼むわ」

ヴァンがそういうと隊員が転移と唱えた。

第二話異世界（後書き）

読んでいただきありがとうございます。

本当に話はグダグダですが頑張っています

どうか暖かく見守ってください

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1733o/>

異端児の夢

2010年10月12日16時04分発行